

ぎやらりー わ

NO.57

2012年 1月号



花の村内散歩 日本庭園に咲く葉ボタン

編集・発行 NPO法人グループわ(西田圭一) ホームページ http://www.wa-net.jp
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



「大きな栗の木の下で…」を園児と踊る(名取市増田保育所で。10月18日)

東北第2陣、11か所で交流会

NPO法人グループ わ が派遣した「第2次東北支援チーム」(団長・道満俊徳、15人)は、10月15日から19日までの5日間、宮城県石巻市・女川町・東松島市・名取市を訪れて仮設住宅や保育所、児童センターなどを巡回。11か所で昔遊び・民謡の公演をしてきました。仮設の皆さんや子供たちからは「ありがとう。また来てね」との声がかけられ、メンバーは「疲れも吹っ飛びました」と感激していました。12月10日にはグループ わ が招いた石巻・東浜小と女川第四小の一行も神戸を訪れ、楽しい3日間を過ごしました。年末には1・2次チームが訪れた仮設住宅と児童館などに「お正月のプレゼント」を贈りました。第3次チーム派遣は4月頃をメドに準備を進めています。(広報・南形徹)(関連記事2~7面。カラーグラフ9~12面に)



ボランティアの輪をひろげよう

57号の内容

東北支援体験報告会	400人が「感動した」	4・5面
第2回地域交流と文化の祭典	8面	野鳥物語 「冬は観察の好機」 15面
上海からカレッジ見学に	13面	ボランティア最前線 花山小 16面
六甲山リレートーク	14面	「ボランティアの心」亀田俊彦 17面

[目次の頁へ](#)

1

[次頁へ](#)

昔遊び・大道芸・民謡に沸いた

第2次チーム 仮設・幼稚園・児童館へ、

NPO法人・グループ わ の東北被災地支援チーム第2陣は、仮設住宅・小学校・幼稚園・児童センターで計11回の慰問活動をしてきました。現地から「心のケアをしてほしい」と要望があったので、昔遊び・紙芝居・大道芸・動物風船・マジック・民謡・童謡を中心としたプログラムを組み、三味線・ハーモニカなどの楽器も持参しました。

仮設住宅での公演は今回が初めて。女川町石巻バイパス東、同西など4か所を回りましたが、自治会もまだなく、道路に沿って1列に数百メートルも住宅が並んでいるので“お客集め”が大変でした。事前にポスターやチラシを配布していたのに開演時間になっても集会所はガラガラ状態。メンバーが三味線・ハーモニカ・拍子木を鳴らして各戸を回り、チンドン屋さながらの呼び込みをしてやっと30人ほどが来てくれました。



でも、始まってみると皆さん打ち解けてノリノリ状態。「初めて仮設から出て近所の人と話をした。半年ぶりで民謡を歌った」と涙ながらのお年寄りもいて、私たちもホロリとしました。マジックや南京玉すだれに沸き、紙芝居には大きな拍手が。民謡好きの土地柄もあって、斉太郎節や遠島甚句をみんなで歌い、最後は全員で炭坑節を踊ってフィナーレです。「ふるさと」の歌詞も用意したのですが、「つらくて歌えません」と。こちらも配慮が足りなかったかな、と少し反省しました。

児童センターなど子供たち相手の公演は慣れているので、スタッフもリラックス。気楽に子供たちと遊ぶことができました。ある幼稚園では、140人も集まってくれ、てんてこ舞いの大忙しでしたが、「面白かった。また来てね」と口々に声をかけられ、疲れも吹っ飛びました。

神戸の子供たちからのメッセージは、どこでも歓迎されました。A3判サイズで110枚を持参。仮設や幼稚園の壁に張ってもらいましたが、子供たちも

熱心に見てくれており、保母さんからも感謝されました。その様子を写真に撮り、メッセージを書いた児童館などに届けましたが、神戸の子供たちにとっていい経験になったと思います。

連日の公演だったので、毎晩ミーティングで翌日

のプログラムと材料の数を確認。紙トンボなどの不足分は作って補充しました。宿舎は和室の4人部屋に5人。食事は朝と夕食はホテルの定食。お昼はコンビニの弁当で済ませました。

名取市の惨状には驚きました。石巻・女川などはガレキの山でしたが、ここは見渡す限り何もなく、きれいに整地された造成地のようなので、「大津波がすべてを持って行ってしまった」ということです。

女川・石巻・東松島・名取を巡回

日程 今回は15日朝、新神戸から新幹線で仙台へ。レンタカー2台を借りて訪問先を巡回。19日の夜行バスで帰るハードな日程でした。

16日はスタッフ14人で女川町石巻バイパス東住宅（参加30人）、同西住宅（25人）で公演。17日は2班に分かれ、女川町清水の仮設住宅（40人）と東松島市のはなふさ幼稚園（140人）=写真。午後は合流して石巻の新田仮設住宅（40人）。

18日も2班に分かれ、石巻市の東浜小学校（23人）と荻の浜保育所（9人）。名取市の増田保育所（76人）。午後は合流して、名取が丘児童センター（90人）で公演。19日は名取が丘保育所（51人）とゆりが丘児童センター（61人）で最後の公演をしました。

神戸へようこそ

宮城の子たち25人

ルミナリエ楽しむ

「ルミナリエでっかいなあ」「パンダかわいい」

石巻・東浜小と女川第四小の一行25人は12月10日神戸を訪れ、12日までの3日間、ルミナリエや明石大橋を見学し、西区竹の台小でミニ運動会を楽しみました。

一行は わ が招待した児童18人と付添の先生7人。おそろいの黄色ジャンパー姿で10日午後、新神戸に着きバスで東遊園地へ。初めて見るルミナリエや周りのビル群にびっくりした様子です。矢田市長と記念写真を撮って、すぐにハーバーランドのホテルへ。「海がきれい。光がきれい」と夜景も気に入った様子。バイキング料理をお腹いっぱい食べて宿舍のしあわせの村へ。付添の先生と わ の世話役3人はここで初めてじっくり顔合わせ。現地の状況を聞いたり、 わ の活動を紹介したり、2時間ほど懇談しました。



2日目は藍那小の14人と学生ボランティアも加わってバス旅行。明石大橋 - 須磨水族園 - 王子動物園を回りました。パンダやラッコ、フラミンゴはやはり人気者。歓声が絶えません。水族園と動物園では3校ばらばらになってグループを作り、自由に園内を散策しましたが(写真)、これは面白い試みだったようです。夜のミーティングで「他校の子と初めて話せた」「友人ができた」「とても楽しかった」と弾んだ発言が聞かれました。

3日目は西区竹の台小で交流会。体育館で猛獣狩りゲームをしたり、運動場で玉入れをしたり。最後に「しあわせ運べるように」をみんなで歌って、お別れです。東浜小の角田校長が「神戸の人々の好意は心にしみる」とお礼を述べると、西田理事長が「喜んでもらえてよかった。これからも支援させて



東北へお正月のプレゼント

仮設や児童館など11か所に

仮設の皆さんや子供たちにお正月のプレゼントを 12月6日のプロジェクト会議で、これまで支援チームが訪問した仮設住宅に手作りの祝箸とカレンダーを、児童センターなどにスポーツ用具を贈ることを決め、16日に現地へ発送しました。

祝箸は模様入りの和紙で箸袋を作るのですが、総数は1000膳にもなり、すべて細かい手作業なので大変でした(写真)。柴田久榮さん(生13)の指導で昔遊び・和楽会の有志を動員、3日ばかりで完成させました。カレンダーは石巻・東浜小、女川第4小の子供たちが神戸でルミナリエを見ている写真をはめ込みラミネート加工したものです。これも支援チーム有志が3日かけて作りました。

【プレゼントの送り先】 祝箸(1000膳)・カレンダー(450枚) = 女川町石巻パイパス東・西・清水の各仮設と石巻市新田住宅の計450戸。ドッジボール・折り紙・縄跳び・バドミントンセット = 登米市米山・中田・迫・登米の各児童館。田尻大貫小。荻の浜・増田・名取が丘の各保育所。はなふさ幼稚園。名取が丘・ゆりが丘の各児童センターの計11か所(東浜小へは神戸で手渡し済み)。

ください」と応じていました。一行は、お昼前に帰途につき、同夜、全員無事に石巻に帰り着いたそうです。世話で駆け回った堺理事は「子供たちの楽しそうな姿を見て、涙がでそうなほど感動した」と話していました。(12面に写真グラフ)

【第2次支援チーム参加者】西田圭一・道満俊徳(わ本部)大澤貞男(生13)内田たみ子(福10)増金スミ子(福11)飯川泰郎(国12)古後健一(福18)中村宏栄(福9)高木良治(福10)田邊瑩子(福12)波多野武郎(食16)黒本茂弘(食13)南形公子(福13)海野龍英(食16)内村ナナ子(国18)

東北支援報告に400人が感動



報告会の初めに亡くなった方々へ黙禱

9人、切々と体験を語る

グループわの東北支援報告会はジョイラックデーの10月22日、カレッジホールで開かれ、400人を超すカレッジ生・OBが熱心に聞き入りました。

報告会は10時開会。松島秀明カレッジ事務局長が「わによる東北支援活動は阪神大震災のお返しの意味があり、時宜にかなった活動だ」と挨拶。西田圭一・わ理事長は、3月からの支援活動を説明したあと、「今後も息長く続けるつもりだ。皆様のご協力をぜひお願いしたい」と呼びかけました。次いで、第1次支援チームの活躍を収めたビデオ『震災ボランティア奮闘』を上映。

続いて道満俊徳氏（1・2次団長）による軽妙な司会で、大澤氏を皮切りに9人が体験発表。胸のうちに溜めこんだ思いを、声を詰まらせながら訴える内容に、会場はシーンと静まりかえりハンカチで目頭を押さえる女性も見られました。ある男性も「とても感動した。ご苦労様とねぎらいたい」と話していました。KSC仲間による話は、より身近で、心の琴線に触れるものがあったのでしょうか。会場アンケートでも「ビデオも報告も大変よかった。皆さんの努力に頭が下がる。できれば自分も参加したい」との回答が多数ありました。ロビーでは、東北支援活動の写真やわの活動を紹介するパネルが並べられ、多くの人が足を止めていました。生環3年のグループが震災時の危機管理を訴える展示をしたり、振興協会が東北の物産を販売したり、「東北デー」の一日となりました。

【9人の発表内容】

大澤貞男（生13、1・2次、昔遊び）=被災地の子

供たちは昔遊びで喜んでくれるだろうか、が一番心配だった。でも童謡を歌い、南京玉すだれでびっくりさせ、ぶんぶんゴマを一緒にやるころには、硬かった子供たちの表情もすっかりリラックス。帰りには窓から手を振って別れを惜しんでくれた。「こんなに子供たちが笑ったのは久しぶり」と保母さんからも感謝された。神戸の子供たちからのメッセージも喜んでもらえた。被災した子供たちは、一見、元気そうだが友だちや肉親を亡くし、心に深い傷を負っている。心のケアを続けてあげることが必要だ。

「夜になると外へ出て泣くんだ」

内村ナナ子（国18、1・2次、田んぼ）=夏の田んぼ作業では東北を肌で感じたが、2次では「心」で感じてきた。ある仮設住宅でのこと。小3の男の子が自転車で案内してくれたが、その子がぼつともらした。「ばあちゃんと父さんが流された。この間、焼いたんだ...」と。そこへ、おばあさんの手がかりを求め警察へ行ってきたという81歳のおじいさんが帰宅。「体育館も仮設も泣く場所がない。夜になるとさびしいので、外へ出て泣くんだ。でも頑張るよ」。目が不自由という76歳のおばあさんからも「夜が怖い。ほんとにさみしいよ」としみじみ訴えられた。

片岡隆夫（国17、1次、田んぼ）=大震災の直後、現地へ連絡をとったが個人ボランティアは受け入れてくれなかった。その後、長野で地震があり、そちらへ行って帰って来たら、わの募集があった。登米市の知人は、車に乗っていて津波に遭遇。山に逃げ込んで一夜を過ごした。娘と妻も無事だったが、以後避難所で生活しているという。田んぼ作業は千人が亡くなった南三陸。昼食を摂った旧家の庭でタバコを吸っている男性と話した。父親と母親が依然不明で「昼にはここへ泣きに来てるんや」。グシャグシャの顔で訴えられ、返す言葉もなかった。

「ふるさと」は辛くて歌えない 路上で三味線民謡ライブ

南形公子（福13、2次、マジック）＝一番の心配は「キャパのない年寄りが行ってどんな効果があるのか」ということだった。でも、現地へ着いた途端、そんな考えは吹っ飛んでしまい、謙虚に接して下さる被災者の前では、チーム一丸となって、ただ必死で役割をはたすしかなかった。最後の日の名取が丘児童センターでのこと。男の子が「ぼく、マジックする人になりたい」と真剣な表情で訴えてきた。エッ、とびっくり。私の下手なマジックを見てそんな気持ちになってくれたのか。恥ずかしいやら嬉しいやら。私にとって、何よりのお土産になった。

海野龍英（食16、1・2次、田んぼ）＝私には大崎に20年来の友人がいる。奥さんは女川町で両親を亡くされたが「遺体が見つかってまだ幸せだ」といっておられた。私たちが神戸から来ていると話すと、「自分にもお手伝いさせて」と、受け入れ態勢づくり・宿舎の手配・情報提供を率先してやってくれた。私はハーモニカを持参。子供たちとたくさんの童謡を歌ったが、ある仮設で「ふるさと」は辛くて歌えないといわれ、現地では歌えずじまいだった。早く復興して被災者が故郷へ帰れるように願って、本日は会場の皆さんと「ふるさと」を歌いましょう。

小澤輝彦（生13、1次、田んぼ）＝阪神大震災の時、会社が全壊。全国から支援をしてもらったので、恩返しのつもりで第1次チームに参加。南三陸の山間で田んぼのガレキ運びをやった。炎天下、悪臭と闘いながらの作業なので、帽子・長袖・鉄板敷きの長靴・首にタオルのスタイルで、防塵マスク・虫よけスプレーも必需品。散乱する丸太・柱・家財を農道まで運ぶのだが、チーム一丸となって2日で3枚を片付けた。地主さんは「もうダメと諦めていた。塩抜きをして秋には何か植えます」と喜んでくれた。「やった」という満足感にひたることができた。

黒本茂弘（食13、1・2次、昔遊び）＝ブンブンゴマを回しながら登場。「今の子は不器用と言われるが、うまくいった時の顔・感動の笑顔は忘れられない」。宿舎近くにボランティアのテント村があったので、話を聞いた。ある若い女性は「東北の惨状を見て、居ても立ってもおれずに駆けつけた。ボランティアはするのではなく、させていただくという気持ちでやっています」と。私は日本にもこ

んな考えの若人がいるのかと感動した。私は力(感動)キ(気配り)ク(工夫)ケ(健康)コ(好奇心)を座右の銘にしているが、これが活動を長続きさせるコツだ。



増金スミ子（福11、1・2次、大道芸）＝（あつ、さて、あつ、さて...とおなじみの口上で登場）。開口一番「ボランティアは私を燃えさせる火ダネです」。自分も楽しみながら、東北の方に私の大道芸をみてもらい、笑顔を取り戻すきっかけになれば、とチームに参加した。派手な衣装姿の私を見て、「なんでこんな服着てるの」「日本語でしゃべってね」「動物風船ってどうやって作るの」。子供たちから次々質問が飛んでくる。「また来てね」「また来るね」。公演が終わると子供たちと別れを惜しむ日々。大変だったけど、子供たちの笑顔に励ましてもらった。

波多野武郎（食16、2次、民謡・三味線）＝石巻の仮設のこと。開演時間になってもお客が数人。三味線・ハーモニカ・拍子木を鳴らし、マイクとスピーカーを持って各戸を回り、やっと30人集めた。80歳の方は、漁師で民謡の先生。三味線を4棹流されたというので「私の三味線を弾いてみて」と手渡したが、すぐ「だめだ。弾けない」と返された。心無いことを言ってしまったと反省。呼び込みの途中、大漁旗を掲げている民家があった。民謡好きの人が集まって来たので路上ライブになった。民謡や三味線が被災者と私たちを結ぶ絆となって嬉しかった。

メリケンパークで わ の東北写真展

神戸ふれあいフェスティバルが10月15～16日、メリケンパークで開催された。今年は東日本大震災の復興を支援するため、東北観光のPR・東北の物産、震災ボランティアの活動紹介などのブースが設けられ、連日多くの市民が足をとめ熱心に見入っていました。グループ わ の東北支援活動を紹介する写真パネルも展示され、第1次支援チームの清野明（生環13）、小澤輝彦（生環13）、平林啓子（音文18）、芦田義和（生環15）の4人が世話役として参加。来場者の質問に答えて現地の様子や わ の支援活動をわかりやすく説明しました。（広報・芦田義和）

東日本大震災...あの日から

グループ わ でも支援活動

学長 今井鎮雄

3月11日は大きな会議を翌日に控え、2千人近くの参加者とゲストへの対応を打合せたあと、午後遅く自宅へ帰りテレビをつけると、大地震と津波に襲われた東北地方と交通網が混乱し人々が苦勞して帰宅しようとする東京の映像が流れていました。



2011年4月の入学式で

急遽キャンセルをとの意見も出た会議ですが状況を見ながらプログラムを進めることになり、翌日の会場では事務局の呼びかけで義援金が集められる一方、福島の子原子力発電所で事故が起きたらしいとの情報が囁かれ、ラジオのニュースに注意を払いながら13日の会議終了まで緊張は続きました。終了後のパーティーで頼まれていた乾杯の音頭は、大地震と大津波の犠牲になった方々のご冥福を祈る言葉に代えさせてもらいました。その後、被災地の知人に安否を尋ね支援物資を送ったのですが返事はなく、彼らの無事がわかったのは3月も末のことです。

4月になると、私の属しているクラブの若い会

員たちがワゴン車に食料品や水、子どものための本を積み込み、十何時間かの道のりを交替で運転しながら被災地へ向かいました。

神戸市民の募金を早く被災地へ届けたいと、福島、宮城、岩手の県庁を訪問したのは、5月中旬です。福島で知人の事務所を訪ねたところ、多くの人は埼玉や山梨にある福島県民の避難先を激励に出ている、会うこともできない状況でした。

福島原発の事故は世界規模の問題になりました。近代世界は懸命に働きモノを大量に生産することで繁栄してきたのですが、1986年のチェルノブイリ原発事故のあと、ドイツの社会学者ウルリヒ・ベックは著書「危険社会」で、原発の開発は大きなリスクを伴うもので人類の歴史の一つの曲がり角を示すものだと指摘しています。経済社会の繁栄の裏には原発のような世界全体を巻き込むリスクが伴うことを覚え、今後どのように人間は対応するのかを考えることは、私たちがいま向き合わねばならない重い課題になりました。

グループ“わ”の皆様は、東日本大震災後まもなく被災地救援のための募金活動に、また東北支援チームを結成して現地に赴かれるなど、長期的な視野に立って被災地で苦しみ悩む方々に寄り添ってくださっています。あの日から「再び学んで、他のために」のモットーそのものである支援活動を展開して下さっている皆様に、この機会を借りて心から御礼を申し上げます。(2011年11月)

東北支援のこれから

第1次・2次チーム派遣を終えて

3月から始めた東北支援活動。募金や2回にわたるチーム派遣、現地の子供たちの招待などを実施してきたが、効果はどうだったか、反省点は何か、今後の展開をどうするか、について総括してみると - -。

募金は神戸市に委託したこともあり、反響を直接つかむことはできなかったが、7月・10月のチーム派遣はかなりの手応えを感じた。現地の状況を肌で感じ、被災者と直に交流することができた。「神戸から」というだけで、悩みを相談されたケースもあった。とりわけ、児童館・幼稚園などへの慰問は好評だった。子供たちと遊んで、楽しんで、笑って...。保母さんからも「こんな笑顔は初めて見た」と感謝された。仮設では一緒に民謡を歌ったり、踊ったり。「震災以来、初めてうたった」と、涙ながらのお年寄りもいて、こちらもとまどった。なにより、オールKSCという形でチームが組めて、現役・OBの絆が深まった意義は大きい。

でも、東北までは遠い。「また来るよ」と約束しても、すぐには応えてあげられない。時間的な制約があり、被災者とじっくり話す場もとれない。日程はハードにならざるをえず、メンバーにとっても相当きつかった。

私たちは、独自の支援ルートを探り、1年間は続けようと思ったので、4月ごろにはもう一度現地へ行きたい。「心のケア活動を」という強い要望がある。子供たちには“震災後遺症”が出てくるし、仮設のお年寄りは孤立しがち。自治会組織もまだ機能していない。私たちがお手伝いできる場はまだ多い。これまで昔遊びや大道芸・マジック・民謡を中心にやってきたが、もう少し幅広い内容、多くのサークルが参加できる企画も考えたい。

資金的な裏付けも欠かせない。1・2次派遣は助成金でまかなってきたが、自前の資金集めも必要だ。幸いカレッジの皆さんの関心は高く、〔サポート募金〕も順調なので、今後も協力していただだけそうだ。私たちが先頭に立って、もう少しがんばろう。

(東北支援プロジェクトチームの西田圭一・道満俊徳・大澤貞男・南形徹の話をまとめたものです)

活動レポート

幼稚園で楽しいイモ掘り

秋晴れの10月26日、遊喜幼稚園（東灘区）でサツマイモ掘りが行われ、区会メンバー5人も園児40人と一緒に楽しい半日を過ごしました。イモは5月中旬、園児とともに植え付けたもので、水遣り、雑草取り、ツル返しなどの世話をしてやっとこの日を迎えました。「わーい、イモがあったよ」。あちこちから園児のかわいい歓声が上がり、大小あわせて150本ほどの収穫がありました。11月30日にはイモパーティーを開き、園児・先生・私たちボランティアが園庭のシートで蒸しイモにぱくつきました。

この幼稚園は95年の歴史があり、遊具や花壇、プールが整備され、広い菜園も備わっています。私たちはこの菜園で年間を通じ園児たちと一緒に作物を育てています。3月のジャガイモ、5月のサツマイモ、6月のニガウリ、9月のダイコン、11月はタマネギ、

イチゴ...。種まき、水遣り、収穫など月2回程度の作業を行っており、食育や環境教育の助けになればと思っています。

ニガウリは先生たちの健康の元に、イチゴは朝摘み取りお昼のデザートに、とれたての作物は園児の家庭での食卓に上っています。（園芸7期 富永征児・東灘区会）



サポート募金のご報告

10月から開始した東北支援活動の資金に充てる〔サポート募金〕の賛同者の氏名・団体名は次の通りです。（敬称略・受付順）

【10月6日～12月31日分】黒木茂弘・大澤貞男1万円、西川壽夫(生10)千円、道満俊徳(生13)5千円、繁田政弘(福10)千円、繁田真砂子(福10)千円、横井正昭(国6)千円、中谷昭子(福12)2千円、ボラテアグループ「わらべ」52,500円、榊原弥栄子(生13)3千円、井上美保子(食11)2万円、川畑輝盛(園8)3千円、松岡恭子(福10)千円、松岡泰彦(園7)2千円、中川朝(福1)3千円、国光とし子(音7)3千円、匿名(生8)千円、国分東洋彦(生10)2千円、清水英暢(美12)1万円、西馬光博(国17)5千円、原田照子(音3)1万円、室橋雄三(生4)2千円、淵先はる代(生6)千円、中村吉宏(国5)2千円、青野義夫(国11)2千円、多賀浩三(国13)3千円、富田正(生6)千円、兵庫区会1万1千円、須磨区会2万円、内田たみ子(福10)1万円、長谷川洸士(国11)3千円、茅中英一(生11)1万円、柳川瀨淳一(国13)3千円、細野恵久(福3)2千円、長谷川博(生9)3千円、三輪匡清(国10)3千円、岡村憲二郎(園7)千円、笹内孝一(園13)3千円、植田収(福7)千円、武田勲(生12)5千円、加藤悦子(福3)2千円、世戸登美子(生8)千円、常信久子(音5)5千円、大久保晴子(生14)2千円、水野雅廣(福3)2千円、土部貞子(福9)千円、上月清(食12)3千円、藤井博子(福9)千円、三島博子(食10)5千円、三島隆夫(生8)5千円、天井順子(音12)3千円、大久保洋子(福8)千円、KSC垂水会2万円、橋本利雄(生12)1万円、土井昭政(国10)3千円、南原民子(国10)千円、一森美代

子(福12)千円、岸本清(生14)千円、納村裕子(生15)千円、宮崎芳江(生12)千円、西阪順三(生8)千円、山崎節子(生9)2千円、仲田稔(福1)1万円、元田弘忠(生9)2千円、小畑章(福11)千円、山口俊雄(生7)5千円、加-チム(食15)1万円、小幡順子(生9)千円、大坪英二(福4)5千円、小沢輝彦(生13)1万円、小林由美子(国1)5千円、新田昌明(国3)千円、多田ケイ子千円、待鳥孝夫(生13)1万円、妹尾芳子(福12)5千円、中村宏栄(福9)2千円、坂本勉(食7)2千円、津田彰子(福1)1万円、栗田雅夫・静代(福11)5千円、中野典子(国8)5千円、井上千加子(園15)千円、小林精一(福9)千円、菅田忠志(生11)千円、飯川泰郎(国12)千円、菅田啓子(国11)千円、中谷登美子(福3)千円、杉本敦子(音6)2千円、増金スミ子(福11)3万円、上徳瑞恵(食15)千円、福祉部会(加藤、富本、藤田、堀内)3千円、佐伯美昭(国8)千円、岩井俊明(音6)千円、小泉喜美子(福13)千円、KSC民謡クラブ2万円、萩原允子(音1)1万円、国永靖子(音6)2千円、大掛敏夫(生7)千円、こうべ環境未来館6265円、植村勝(福14)5千円、マジック同好会(大澤、黒木、大西、南形)1万円、シルバー大学院3万円、池邊彰(国12)千円、廣地良子(音12)5千円、11/22報告会参加者5070円、水野光明(健16)千円、須賀悦子(国14)3万円、内村ナナ子(国18)1万円、松浦信子(音6)千円、林田周治(生14)千円、高井康子(音10)5千円、花山小学校2735円、井口久美子(健16)1万円、俳友会2552円、KSC手話コーラス同好会2万円、衣笠年子(国12)5千円、塩崎賢(福11)3千円、岡野安子(福8)千円、フラパ国内ガイドG2501円、胡間恵子(食11)3千円、折紙グループ「悠々」7374円、有田兼光(生14)千円、おはなし糸車1万2千円、（合計77万3397円）

躍動のヤング

円熟のシルバー

地域交流と文化の祭典開催

第2回「地域交流と文化の祭典」は10月30日、カレッジホールで開かれ、SCハワイアンズを皮切りに18団体がダンス・合唱・マジック・大道芸・銭太鼓などを熱演。150人の観客から盛んな拍手を浴びていました。

グループ わ傘下では13団体が出演。日頃のボランティア活動で鍛えた円熟の演技・演奏を披露、会場を魅了しました。地域の子供たちは5グループが参加。若々しい元気いっぱいのパフォーマンスで会場を沸かせました。

圧巻は津軽三味線の中学2年生・大槻祐希未さん。全国大会レベルという見事な撥さばきで、斉太郎節など4曲を演奏。迫力に圧倒された会場からは「おおーっ」と声が飛ぶほどでしたが、本人は「楽しく弾けましたよ」と冷静でした。

週3回も練習しているというZAPは、舞台狭しと跳ね回るダイナミックなダンス。お母さんの手作り衣装が映えました。「じいじ、ばあばの前で踊れて楽しかった」と。六甲道銭太鼓グループは、銀雅のメンバーとコラボ演奏。鉄人28号の練習に5か月もかけたそうです。



一寸奉仕SCによる南京玉すだれの妙技

ロビーでは書道・絵手紙・俳句の力作や昔遊びの活動を紹介するパネルが展示され、多くの方が足を止めて見入っていました。

小林・文化部会長は「2年目の手ごたえは充分。観客動員に努力してさらに魅力ある祭典にしたい」と意欲を燃やしていました。

【出演・展示団体】SCハワイアンズ・大正琴プリムラ・新舞踊クラブ・マジッククラブ・混声合唱団コーロKS



津軽三味線で熱演する大槻祐希未さん

C・楽遊クラブ銀雅・ボランティアグループわらべ・KSC手話グループ同好会・おはなし糸車・KSCハワイアンズ・KSC民謡クラブ・一寸奉仕・KSC男声合唱団・俳友会・昔あそび研究会・絵手紙グループ・書道。地域グループ=ZAP(ダンス・西区)レインボーキッズ&ティンカーベル(コーラス・須磨区)ひよどり台中学吹奏楽部(北区)大槻祐希未(津軽三味線・垂水区)六甲道児童館銭太鼓クラブ(灘区)

(広報・南形徹 写真・渡邊佳視)

若い感性に引き付けられた

この祭典の催しを見て「やはり若いことはいいことだ」と改めて感じると共に羨ましく感じたものだった。カレッジOBの皆さんの素晴らしい演技や歌声に感心しながらも、若い人たちのパフォーマンスに強く引き付けられた。

色とりどりの振り付けで、とても速いテンポで踊ったZAP(西区)の「子供ダンス」、あんなに小さな子たちがよくぞやったものだ。六甲道児童館銭太鼓グループの演技も銀雅に引けを取らず、小さな身体できびきびと歯切れのよいものであった。レインボーキッズ&ティンカーベルの女の子たちの透き通ったきれいな声にはすっかり聞き惚れてしまった。中学2年生大槻祐希未さんの津軽三味線もイキが良く素晴らしかった。神戸に在住しながらあれ程の技量を積み重ねるには大変な苦労があったことと思われるが、天賦の才能を生かし大いに羽ばたいてほしいと願った。(生環15・池田惇)

大津波に町が消えた 女川・石巻・名取



⑤地盤沈下で満潮時には1
畝も浸水する女川町海岸部



【写真】④⑥多くの住宅
が流され見渡す限り何も
ない名取市ゆりあげ地区
⑤⑥女川町清水の民家には
元気を出そうと大漁旗
が【下段】津波で倒壊し
たビルや看板（女川町で）



【東北支援関係と9～12面のグラフ写真は、渡邊佳視・古後健一・黒本茂弘・南形公子・松岡泰彦が撮影】

保育所で、仮設の集まりで 笑顔の交流



【写真上段】 = ㊦増田保育所で ㊦㊦ゆりがおか児童センターで ㊦名取が丘児童センターで
 【中段】 ㊦はなふさ幼稚園で ㊦増田保育所で「グループの輪！」 【下段】 ㊦増田保育所で ㊦名取が丘保育所で

歌って踊って「元気が出たわ」



【写真上段】④石巻バイパス西仮設で ⑥石巻復興センターで 【中段】④石巻バイパス東仮設で
⑥石巻バイパス西仮設で人集めのキャラバン隊 【下段】④石巻バイパス東仮設で ⑥女川町清水仮設で

宮城つ子
IN
K
O
B
E

石巻東浜小
女川第四小



㊤12月10日ルミナリエ見学 ㊦㊧11日、明石大橋で ㊨藍那小からの贈り物にお礼のDVDを渡す東浜小の児童（左）



10月17日、グループ わ の東北支援チームが石巻・東浜小学校を訪問した時のスナップ写真。体育館で南京玉すだれを披露しています。



12月12日、竹の台小学校でミニ運動会。

上海の記者らカレッジ訪問

上海のジャーナリスト、老年大学関係者ら5人が1月30日、シルバーカレッジを訪れ現役・OB9人と懇談しました。超高齢化が進む日本のシルバー世代の生き方をさぐるとの趣旨で、江澤福氏（国14）を通じて話がありカレッジ事務局とわが対応しました。



一行は、昼前に到着。校内見学のあと学習室1に降り、出迎えた松島事務局長と西田理事長が「ニーハオ」と歓迎の挨拶。カレッジのPRビデオを見たあと、弁当を共にしながら約1時間和やかに歓談しました。上海にも老年大学があり、KSCの運営・規模・カリキュラムについて質問が集中。中国では老人がボランティアをする習慣がないそうで、わの組織に大きな関心を寄せ「上海でも卒業生の組織を作りたいですね」と。日本と違い一般の大学が、老年大学を併設しているため、カリキュラムは多彩。芸術・音楽・社会科学・スポーツから英語・日本語まであり、設備も大学と共用なのでかなり充実している印象です。

わからは、70あるサークルが日常的にボランティア活動をしている現状を説明。今年は東北支援に力を入れていることを強調しました。食後に抹茶を出したところ、「ヘルシー。おいしい」と好評でした＝写真（古後健一撮影）。

「カレッジと上海老年大学との間で、今後なんらかの形で交流しましょう」との話も飛び出て意気投合、午後1時すぎに散会しました。帰途、バスで村内を1周して、窓から紅葉や各施設を見てもらいました。ごく短時間の訪問だったので、カレッジ側からあまり発言ができず残念でしたが、先方からは「素晴らしい環境で学ぶ神戸の老年世代がうらやましい。多謝、多謝」と何度もお礼を述べられ、喜んでもらえたようです。（広報・南形 徹）

印象深いカレッジ、いい勉強に

楊徳広（上海師範大学老年大学顧問）

われわれ訪日団一行5名は11月30日、麗しい自然な景色に囲まれた神戸シルバーカレッジを訪れることができました。松島事務局長を始め、西田理事長、在学生、卒業生など合わせて11名の方々より心厚く応接していただきました。学校の施設や校舎の見学をした後、教室内の教学活動や陶器作りの実技も見学でき、懇談会にて学校の経営状況なども十分に伺えました。

中国と日本の老人は、机を囲んで座り、楽しく話し合い、昼食も共に摂りました。短い交流時間でしたが、印象深く、本当にいい勉強になりました。神戸シルバーカレッジは、神戸市の出資により、作られたもので、7学科があり在学生は、計1200余名います。授業料は、1学年5万円で、それは学校運営に必要な経費の半分のみで、不足分は、市役所より助成されているそうです。これにより日本政府が生涯教育をどのように重要視しているかは十分に窺えます。シルバーカレッジに通って楽しく勉強し、心身とも健康で調和の取れた社会になり、老人の病気治療にかかる政府の負担も低減されれば、まったく一石二鳥のよい投資だといえるでしょう。

この学校の特色として卒業生の多くが「グループわ」という、ボランティアの組織に参加され、児童館、小学校、福祉施設で社会公益活動に参加されています。特に東北大地震が発生した際、シルバーカレッジのOBは、自発的に被災地へ駆けつけて支援活動に参加されました。彼らの勇ましい行動と無我奉仕の精神は、若者たちに模範を示すものとなりました。中国の老人大学も全国各地にたくさん創設されており、一部成功の例も見せていますが、シルバーカレッジのように、優れた教学施設を持ち、合理的な管理が行われ、特に卒業後も「グループわ」のような組織で、OBの方々が続く社会へ貢献できるという面では、われわれが汲み取るべき良い手本となるのではないかと思います。

（楊氏の中国語原文を翻訳したものを一部割愛して掲載しました）

懇談会出席者・敬称略【中国側6人】邵寧（新民晚報記者・女性）邵伝烈（評論家）楊徳広（上海老年大学顧問）万潤龍（文匯報記者、中国のエイズ第1号報道）羅明暁（通訳）岡本義正（上海市観光局顧問）

【司会・通訳】江澤福（国際14・神戸市在住）【カレッジ側9人】土井昭政（国10）柳井秀友（国10）井口久美子（福16）海野龍英（食16）古後健一（福18）内村ナナ子（国18）平林啓子（食18）蘆田義和（わ本部）南形徹（わ広報）【応援】加藤卓子（福16）

六甲山は病んでいる。今こそ保全を

リレートーク 10人が講演

国際森林年にちなんだ「六甲山リレートーク」(シルバーカレッジ・神戸市建設局主催、グループわ など共催)が10月28日、カレッジホールで開催されました。昨年の生物多様性フェアに続く2回目の講演会で、生環コースの学生ら約300人が熱心に耳を傾けていました。

午前10時開会。新野幸次郎氏(神戸市都市問題研究所)が「神戸の象徴としての六甲山の保全」をテーマに基調講演。「六甲山は都市部にありながら、緑豊かで生物多様性に恵まれ、観光面からも市民の資源であり財産だ。しかし、最近は色々な問題を抱えるようになり、実効ある手立てを講じなければならない事態に至っている」と問題提起をしました。

次いで、KSCのOBら9人が、行政の立場から、観光の面から、山ガールから、ボランティアの立場から、4時間にわたって様々な報告と提言を行いました。

最後に「多くの恵みを与えてくれる六甲山は、いま病んでおり、保全のために知恵と力を集めよう」との六甲山市民宣言を採択。全員で「青い山脈」を歌って散会しました。(9人の報告内容は次の通り)

魅力生かして「森林戦略」

「六甲山は魅力がいっぱい」高畑正氏(神戸市建設局) = 神戸市は、景観がすばらしく、名所旧跡が多い六甲の魅力を生かして「六甲山森林戦略」を策定する。土地所有や植生、法規制等の現状を把握し、森林の将来像や保全・育成の方針、公的関与のありかたや財源、林産物の活用や人材育成などを踏まえ、森林管理を継続的に行う仕組み作りを検討する。

「六甲山の魅力を考える」豊田實(郷土史家) = 六甲山の歴史には古い日本人との関わりがある。神功皇后の六つの甲の埋蔵説、六根清浄を願う修業の山だったが、明治時代にグルーム氏達により開発され、村人たちが登山を始め、山に親しみ愛するようになった。私たちは「いきいきわくわく探検団」を組織して六甲山を歩き自然と仲良く生きることの良さを学んでいる。

「六甲山は、ちょっと変わった観光地」上田均(六甲摩耶鉄道) = 六甲山には年間200万人が訪れるが、いったい何を見に来るのだろうか。一般の観光地に「あるだろう」と思われるものがなく、他に類を見ない観光地だ。観光事業者の立場からは沢山の人に来てほしい。六甲の観光資源を再認識し、付加価値を付け、多様なニーズに応える「情報発信」基地を目指している。

「六甲山の清掃活動とグリーンベルトの植樹」岡俊明(兵庫県勤労者山岳連盟) = 六甲山からゴミを一掃する活動を1978年からしているが、ゴミを拾うことが



目的ではなく、きれいにすることであり、半永久的な活動になる。国交省の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し住吉川左岸で植樹と下草刈りなどを行っている。

「六甲山を活用する会の10年」堂馬英二(六甲山を活用する会) = 阪神大震災で六甲山の崩落箇所を目にして活性化を考えた。地域ビジョン委員会で六甲山を活用するプログラムを作成「六甲山を活用する会」を設立して、環境整備や環境学習をしてきた。市民の視点から「生活領域としての六甲山」を目指し、多くの賛同者・協力者を求め担い手を増やしたい。

「山ガールにも人気!親しみやすいコース満載の六甲山」根岸真理(登山指導員) = 六甲山は交通アクセスが整い、気軽に取りつき易い。最近はファッショナブルな服装の山ガールが闊歩している。歩くことは、生活習慣病の予防やストレスの解消に効果があり、都市生活者にはぜひお勧めしたい。気軽に楽しめる六甲山で歩く習慣を身に付け健康な毎日を過ごしてほしい。

「須磨離宮公園森の倶楽部の活動」河上哲作(神戸女子大学教授) = 由緒ある離宮の森を市民参加で美しく、自然豊かにするとともに森の恵みを受取る。特にチョウやカブトムシあふれる生育環境の保全・整備と都市林づくりを目指している。安全かつ快適に回遊できる岡崎山散策コースを再生する。

「東お多福山のススキ草原の再生を目指して」橋本佳延(人と自然博物館) = 六甲山地最大の草原である東お多福山。59haあった草原は今や7haにまで縮小している。この草原の生物多様性を保全し、レクリエーションの場や動植物について学ぶ環境学習の場として活用することを目指した市民の取り組みを紹介する。

「かがやきの森の里山活動」道満俊徳(里山和楽会、生環13期) = 社会福祉法人「かがやき神戸」(北区)隣接の放置林を整備再生して、障害ある方・高齢者・子供が安心して自然に親しむ環境をつくり、里山を通じて地域住民と障害ある方が交流できる癒しの場にすべく、生の仲間15人と活動を始めて5年目。年間50回の山林整備活動を行っている。

写真 = 会場の参加者全員で「青い山脈」を歌う

(取材・生環15 池田惇)

しあわせの村 野鳥物語



冬季も観察に良い季節

落葉した冬季は春のように樹の葉に遮られることがなく野鳥の姿をとらえやすく観察に適したシーズンです。北方からの美しい使者 オシドリ、ジョウビタキ、ベニマシコ、マヒワ、シメなどが容易に観察出来ます。今年はやや暖かい日が多く野鳥たちが渡って来る途中に餌が残っているためか（推測）、全般的に遅れ、「しあわせの村」へも飛来が遅れています。やがて寒さが厳しくなると冬鳥も増えて来ると思われます。

野鳥たちにとり冬季は餌となる昆虫類も少なく厳しい冬を越すために、カキ、ピラカンサ、クロガネモチ、ムラサキシキブ、マユミなどの樹の実を探して懸命に啄ばむ姿があちこちで見られます。今春巣立った野鳥のヒナたちの翌春への生存率は10%未満と言われ命を繋ぐのに、私達が身近にいても気にせず懸命に餌を探しています。近くで野鳥たちをじっくり観察出来るチャンスです。

そして何とか厳冬を越し2月も後半となり、時々



春の兆しが見え出すと、ウグイスやメジロやカラヒワなどの留鳥は春の子育てに備えてそれまでの集団的な行動から番（つがい）の行動に移ります。冬鳥たちは北の国への北帰行に備えて体力を蓄えるために活発に餌を漁るようになります。

「野鳥と自然観察会」では、今春、環境省の許可を得て専門家に巣箱のシジュウカラやヤマガラなどのヒナへ足環を装着しその生態を追跡する予定です。村内の駐車場周辺の巣箱を天井板が開閉出来る新巣箱約20箱を古い巣箱と交換しました。これはヒナや親鳥が余り驚かないように短時間でヒナへの足環装着を行うためです。これまで殆ど分からなかった巣立ち後のヒナの生態が少しでも分かればと今から楽しみにしております。

また、P2駐車場の巣箱の出入り口が、冬季に大きく噛み広げられる状態が3年間続いたので、入口をブリキ板で補強した新巣箱を増やして設置しました。イタチかアオゲラかモモンガか。何とか犯人探しに終止符を打たなければと考えています。【終わり】（写真④シメ⑤マヒワ=堀池さん提供）
（野鳥と自然観察会 茅中英一・西区会）

環境奨励賞 3グループに表彰状

23年度神戸市環境功労賞・奨励賞の表彰式が10月20日、市産業振興センター（ハーバーランド）で行われ、奨励賞に輝いた野鳥と自然観察会（茅中英一代表）里山和楽会（道満俊徳代表）花山梅林会（塚本桂三代表）の3グループが出席。神戸市長から「環境保全に多大な貢献をされました」と祝辞があり、表彰状と記念品を受け取りました。

花山梅林会の徳原尚世さんは「よくそここまでやりとげたものと、感慨ひとしお。神戸市長のゴミを減らそうとのお話や講演会の3Rや省エネのお話の割には、副賞にいただいた記念品（過剰包装、用途に困る置物）に首をかしげながら、重いのを掲げて帰りました」と感想の弁。茅中さんは「仲間とともに喜びを分かち合い、しあわせの村に野鳥を増やし、森を守り広げたい。村を訪れる人々に癒しの場を提供できれば」と活動の意欲を語り、道満さんは「5年間の里山活動が認められてうれしい。今、地元の小学校から環境教育支援を頼まれ、

3年生に樹木の年輪の見方を教えたり、カブト虫の生態観察を一緒にやったりしている」と喜んでいました。

子ども応援フェスタ

第41回子ども未来応援フェスタが11月29・30日、三宮・勤労会館で開かれ、バザー会場では衣料・雑貨など79万円の売り上げがありました。知的障害者施設の資金に使われます。同フェスタには毎年グループわが協力。今回も延べ137人が8日間、ボランティアとして梱包・運搬・販売などを手伝いました。（福祉部会）

コー口KSCの演奏会へどうぞ

混声合唱団コー口KSCは2月25日（土）、に神戸文化ホール（中）で守屋幸子さん（前指揮者）の追悼演奏会を開催します。守屋さんの指導を受けたコー口始め、親和中・高コーラス部など6グループが出演の予定。また、4月15日（日）には第7回定期演奏会を神戸文化ホール（大）で開催します。KSCのみなさんのご来場を歓迎します。問い合わせは、同合唱団・寄藤忠彦（電話743-4452）まで。

生け花・和菓子 男児に人気!?



ボランティア最前線

花山小「日本文化体験教室」

花山小学校（北区）で12月5日に開催された「チャレンジ日本」の体験教室。着付け・生け花・和菓子・大正琴・銭太鼓のどれか一つを自分で選択します。どの教室を覗いても伝統的な日本文化に初めてトライする6年生の子ども達の真剣な姿がありました。先生役の各サークルスタッフも緊張気味です。

長い裾と帯を持って余して、一時はどうなることかと思った着付けグループ。14人の児童は、2人のスタッフの丁寧なリードでかわいらしい着物姿に変身していきます。みんな晴れ姿がうれしそう。給食室や職員室へアピールに出掛けていました。着物や帯のたたみ方も習得。これでヤマトナデシコのたしなみもと思いきや、終わりの集会で、男子の向こうず



ねを思い切り蹴飛ばしている女子もいて、ナデシコジャパンの方が健在？のようです。

生け花グループの半数は男子です。スタッフの一通りの説明の後、恐る恐る生け始めましたが、友達同士で評価し合い、素敵な作品に仕上がっていました。家に



持ち帰り再度挑戦すればお母さんもびっくりでしょう。花山小学校の花いっぱい運動と共に、自然を大切に心が育ってくれますように。

やはり食べ物は人気絶大！和菓子づくりは男子優勢で食べ盛りが集まりました。三角巾とマスク姿は一人前！中のアンコを栗あんで包んだ風情のある上品なお菓子です。出来上がりを美味しそうに頬張るスナップを撮る予定でいましたが、駆けつけた時は既にみんなお腹の中でした。残念！

大正琴と銭太鼓。リズム感豊かな現代っ子だけあって、2時間足らずのレッスンの後の本番披露では、見事な演奏を見せてくれました。正座する銭太鼓で



はシビレをがまんしながらガンバッテいましたよ。

どのグループも短時間で子ども達に興味を持たせ、一通り仕上げさせ、満足感を与えるのは並大抵ではありません。シルバーティチャー達の日頃の研鑽と経験が、分かりやすい指導となり成果をあげていることを実感しました。このような体験教室は、シルバー世代にとっても生きがいと励みになり、アピールするチャンスにもなります。先生役で参加された皆さま、本当にご苦労様でした。=写真は④大正琴 ⑤着付け ⑥⑦生け花と和菓子作り ⑧銭太鼓

(取材・写真 広報・徳原尚世、宮里寿子)

ボランティアの心

三味線携え慰問活動26年

亀田俊彦（音文1期・北区会）

平成5年9月、第1期生として音文コースに入學。楽しい日々を送っていた矢先、平成7年1月17日の早朝、あの忌まわしい阪神淡路大震災が発生し、神戸は甚大な被害を蒙り、学生たちもほとんどが被災者となりました。幸いカレッジには大きな被害はなかったものの長期休校となってしまいました。学生たちの間から「何かお手伝いをしよう」との機運が高まり、私もその一員として、しあわせの村の体育館で各地から送られてくる救援物資の仕分け作業に携わりました。ここで初めてボランティア活動というものを経験しました。

4月から休校中のカレッジが在校生に開放され、5月にはいくつかのボランティアグループが誕生しました。私は「人形劇」に参加し、現在も「人形劇ほたる座」の一員として、劇中音楽の三味線を担当しております。



また、音文コースの有志で、あちこちの施設へ慰問に出かけたのもこの時期でした。コーラス、クラリネット、キーボード、箏、私は三味線...にぎやかなメンバーで6月に六甲の館（北区）を訪問、皆さんと楽しいひと時を過ごして、喜んでいただきました。

趣味の三味線でも活動をしようと、同好者6人と「三味線 弥音会」を結成しました。折よく「東灘地域助け合いネットワーク」から依頼があり、東灘区内の瀬戸公園仮設住宅、深江仮設住宅や各地域の「ふれあいサロン」を訪問し、合奏を聴いてもらったり、一緒に童謡や懐メロを歌ったりして、非常に喜ばれました。吹雪の戸外で演奏したこともあり、今では楽しい思い出として残っています。

現在も月に5か所の施設を訪問していますが、私自身の健康の糧として、できるかぎり続けていきたいと思っております。=写真は2011年の学園祭で（亀田氏は11月に本稿を執筆後、12月2日に逝去されました。ご遺族の了承をえて遺稿を掲載します）

神戸っ子応援団の仕組み学ぶ

第3回学習支援者の集いを11月15日、シルバーカレッジ2階で開催。神戸市教委から講師3人を招き、「神戸っ子応援団」の仕組みについて説明を受けました。神戸っ子応援団は市内82の中学校区毎に応援団組織を立ち上げ、学校（応援団組織づくり）、地域（学習・学校支援への協力）、神戸市（応援団運営と財政支援）の3者が相互に連携し合って子どもの健全育成を地域ぐるみで応援する仕組みです。7年前から学習支援ボランティア活動をしてきたグループには、特に大きな期待がかけられているようです。

講演後の質疑では、「車椅子児童に付き添って階段を上下移動するのは重労働で体力的に大変だ。エレベーターを設置するなど所用の工事をしていただけないか」といった切実な悩みや疑問が次々に出されました。講師からは「そうしたケースでは、予算措置が講じられエレベーター設置申請が学校から出されている筈だ。学校側に確かめてみて欲しい」など具体的なアドバイスや回答がありました。学習支援現場の生の声を行政当局者に聴いてもらえたことは、今回の大きな収穫でした。（学習支援委員会 加藤勇治・美10 北区会）

北区会が「かがやきの森」見学

北区会の親睦ハイキングと里山見学会が11月14日に行われ29人が参加しました。神鉄・谷上駅～森林植物園のコースを歩き、途中、里山和楽会が4年前から取り組んでいる かがやきの森 再生活動を見学するものです。午前10時、和楽会代表・道満俊徳さん（生13）の案内で、1時間かかりで里山に到着。4班に分かれ、会員から植生や整備状況の説明を聞きながら1時間かけて間伐作業や3分の広い山林を見学しました。すでに5割ほどが整備され、散策コースとなっているそうです。ホオノキやコウヤボウキなど貴重な樹木には説明板があり、展望台には鳥瞰図を設置して散策を楽しいものにする工夫がしてありました。このあと、30分ほど歩いて森林植物園へ。紅葉だよりでは「みごろ」でしたが、鮮やかさはもう一つ。食事を済ませて、園内を思い思いに散策して散会しました。（北区会）

親睦グラウンドゴルフ 北区会の45人が参加して球技場で10月26日に開催。3人で1チームを作り、10ホールを2回まわる方式。2時間の熱戦の末、吉田智彦さん（生6）が45点で優勝。アミューズでの昼食懇談会で表彰されました。2位は中川正俊さん（国5・46点）、3位は河野八重子さん（福7・49点）でした。（北区会）

WA からのお知らせ



わ に入会しませんか

3年生の皆さん、 わ に入ってボランティア活動をしませんか。1月10日の説明会に続き、ふれあいホールで入会勧誘をおこなっています。勧誘期間は1月10～18日、2月21日～29日。年会費は1人1500円（保険500円・地区会とサークルへの助成が各400円・広報誌送料200円）です。今年も東北支援活動を継続するほか、各サークルと協力して各種のイベント、学習支援活動などを幅広く展開します。卒業後の人生を実り豊かにするために、 わ の仲間に加わってください。問い合わせは わ 事務局（743-8101）へ。

学園祭実行委から寄付

学園祭実行委員会から「グループ わ の活動に役立ててほしい」と11月29日、3万円の寄付がありました。10月に開催された第17回学園祭のバザー収益の一部で、寄付は毎年続けられています。池田八郎委員長には西田理事長から「大切に遣わせていただきます」と謝意が伝えられました。

スキルアップ講座 「東南海・南海地震に備えて」というテーマで1月18日、カレッジ学習室で。講師は神戸市危機管理室主幹・小林伸一氏。将来予想される大地震・大津波から自分を守るには、どういった備えが必要か、といった内容です。

サポート募金のお願い 東北被災地への支援活動を続けるための募金にご協力ください。1口千円。個人でも、区会、サークル単位でもかまいません。わ本部へご持参いただくか、郵便振替で送金してください。ご賛同者の氏名などは「ぎゃらりー わ」に順次掲載します。

わ のHP担当者募集 グループ わ のホームページ（<http://www.wa-net.jp>）を楽しく見ていただくために、リニューアルを検討中です。HPに関心があり映像編集に興味のある方、お手伝いくださいませんか。情報誌も誌名を第54号（2011年7月号）から『ぎゃらりー わ』に変更し、読者の皆さまから好評を得ています。希望される方は、氏名 コース・期 住所 電話番号 メールアドレスを明示して、わ本部事務局へ電話か（743-8101、ファックス743-3830）、メール（group_wa@wa-net.jp）でお申し込み下さい。

「ぎゃらりー わ」58号は4月中旬発行です。

わ のメールアドレス=わ本部 group_wa@wa-net.jp

つぶやき

オールKSCの活力

あけましておめでとうございます。昨年はあの忌まわしい3・11東日本大震災から始まった。大津波が押し寄せ、人々の生活の全てが失われた。 わ の東北支援プロジェクトが始動。7月と10月には支援チームが南三陸などを訪問した。12月には石巻の小学生を神戸に招いて交歓会をした。この子たちは、きっと復興に立ち上がってくれることだろう。

グループ わ には約1200人の会員がおり、多彩な人材の源となっている。この人と人の繋がりに、広範な被災地支援も実現できたと思う。皆さんの義援・支援・声援に感謝します！

今、日本社会はどんどん高齢化が進み、団塊の世代が老年に突入する。年金・医療がどうなるのか皆が心配している。

グループ わ でも新たな会員と活動資金の確保に不断の努力を続けないと活力が失われる。震災支援ではオールKSC精神が存分に発揮された。この勢いで、もっと多くの方が卒業後もボランティア活動に参画してほしい 新年を迎えた新米理事の夢です。（財務担当・堺 汎）

編集後記



2011年の10大ニュース1位は、当然のことながら、東日本大震災でした。グループ わ も東北支援活動に明け暮れましたが、 わ の主な出来事を拾ってみると - - 。東北へ支援チーム派遣 東北関係の募金200万円突破 「花実の森」里山整備始まる 3団体に神戸市環境奨励賞 地域交流と文化の祭典(以下略)といったところでしょうか。

東北派遣チームの活動ぶりを広く皆さんに知らせ、被災地の状況に眼を向けてもらおうと、広報も奔走しました。本誌を動員したほか、ビデオ制作、ホームページへのレポート掲載、支援体験報告会などを実施しました。とりわけ、報告会は予想を超えるカレッジホールいっぱいの入場者があり、KSCの皆さんの関心の高さに驚き、感激した次第です。

明けて、2012年。閉塞感を打ち破って、マルマルモリモリと元気な日本になってほしいものですね。小誌も魅力ある企画・話題・情報・レポートを提供し、KSCの絆たらん、とがんばります。どうかご支援下さい。（広報担当・南形 徹）

情報ぎゃらりー wa_gallery@wa-net.jp

グループわ 1～3月 イベント

開催日時・場所	テーマと内容	問い合わせ先
1月18日(水)10:30～12:00 神戸市シルバーカレッジ	スキルアップ講座(自由参加) 危機管理:東南海地震に備えて	グループわ 743-8101
2月 未定 マリスト国際学校	日本伝承文化講座 昔遊びの楽しさを体験する	グループわ 743-8101
2月11日(土)10:00～15:30 コムスタこうべ	エコスクール 省エネクッキングを体験しよう	こうべ環境未来館 995-3196
2月18日(土)10:0～13:00 神戸市シルバーカレッジ調理室	手打ちうどん塾 小麦粉から手打ちうどんを作ろう	グループわ 743-8101
3月18日(日)9:30～15:30 しあわせの村球技場	オープンバタンク大会 多くの会員の皆さまの参加を	グループわ 743-8101
3月24日(土)9:00～16:00 関西電力(株)神戸営業所	エコスクール エコなエネルギーを学ぼう	こうべ環境未来館 995-3196
* 内容は変更の場合があります。		

<賑やかに親睦グラウンドゴルフ>

グループわ主催の第6回グラウンドゴルフ大会が10月13日、村内の球技場で開かれ66人が秋の1日を楽しみました。3人ずつチームを組み、午前は個人戦、午後は団体戦を実施。個人は寺東恒雄さん(神屋後援)が優勝し、2位は西原豊さん(須磨区会)、3位は浅田紀代子さん(大正琴)。団体は西区会が優勝し、2位は須磨区会、3位は北区会Dでした。



<秋の森林浴を楽しむ>

紅葉を楽しもう!!!グループわ主催で市民参加を対象とした”秋の森林浴ウォーキング”が11月9日、30人が参加して行われた。神鉄北鈴蘭台駅から送迎バスで森林植物園へ。園内を横切り西門を経て湖

面静かな洞川湖を横目に修法が原へ。ここから鍋蓋北尾根を登って山頂に到着。一気に視界が開け、神戸の街並みが一望されるところで昼食となりました。午後は七三峠を下る。小さなアップ・ダウンがあり、少々急な下りもあったためか、交わす言葉も「静かなコースやね...」から、「きつい下りや～」とぼやき気味に変わる。それでもワイワイいいながら、3時ころには麓の五宮へゴール。時期が少し早かったこともあるが、今年の紅葉はイマイチでしたね。お疲れさまでした。(須磨区会・菅田忠志)

パソコン 講座の受講生募集

グループわが主催するパソコン講座が始まり受講生を募集しています

第1回パソコン入門講座

開催日 1月19・26日 2月2・9・16日(木曜日)

開催時間 午後1時30分～4時30分

開催場所 地域人材支援センター204号室

(JR新長田駅より西南西に約8分、旧二葉小学校跡)

使用するパソコンのOS Windows 7 (Office2010)

募集定員 10人(先着順)

受講料 6,000円(5回・15時間)

(テキスト、USBに別途実費約3,000円が必要です)

申込先 078-743-8101, FAX078-743-3830

引き続いて次の講座を予定しています。

第2回ワード実用講座 4月～5月(連続5回)

第3回画像・デジカメ講座 7月～8月(連続5回)

第4回年賀状作成講座 10月～11月(連続5回)



一ノ谷でゴール

第1回神戸マラソンが11月20日、市役所前～舞子公園～ポーアイのコースで行われ2万3000人が秋晴れの市街地を力走。中山卓也選手が2時間24分13秒で優勝しました。2300人が参加したクォーター（10・6^{キロ}）のゴールは一ノ谷プラザ前（写真）。ファン500人が詰めかけ次々到着する選手に声援を贈っていました。プラザは選手・関係者の控室にもなったため、わから4人が出て混乱に備えました。（撮影・堺汎）

トピックス



跳ねて飛んで...西区の「ZAP」のダンス=文化の祭典から

ビオトープ大掃除 環境未来館のビオトープで12月4日、野鳥の会やコーディネーターを動員して大掃除が行われました。周辺の草刈り、オオカナダモ、アカウキクサなど外来種の除去、ザリガニなどのチェックをして池の水を浄化、春の芽吹きを待ちます。来館していた垂水区の母子もお手伝い。ドジョウやメダカ、ヤゴなどを捕ってはしゃいでいました=写真。（環境未来館）



和風スイーツを楽しむ 竹の台小学校（西区）で12月15日、伝統文化教室が開かれ5年生62人がチャレンジしました。先生役はグループわのスタッフ。生け花・お茶・銭太鼓・大正琴の4班に分かれ、神妙に取り組んでいましたが、意外にも、お茶や生け花が男の子に人気で、スタッフもびっくり。

19日には和田岬小学校（兵庫区）でも銭太鼓と大正琴の体験教室が開かれ、6年生39人が一生懸命に練習に励みました。仲よし学級の女児も「大正琴は楽しい」と嬉しそうでした。（写真・西田圭一）

